

鶴見緑地駅(地下鉄長堀鶴見緑地線) 鶴見緑地周辺から鶴見新山へ



「大阪あそび歩マップ集」
その2 No.079

地下鉄鶴見緑地駅

①すし浅

茨田名物のひとつに、うなぎの箱寿司があります。かつては古川橋から徳庵までの間に7軒のうなぎ寿司屋があったそうで、80年の歴史をもつ、浜の「すし浅」がうなぎ寿司の歴史を守り続けています。絶妙な甘さのタレがうなぎとご飯を引き立て、黒ゴマによって味の深みがいっそう増します。金・土・日のみの営業で、午前10時～売り切れ次第終了。

②枝切道

京街道の黒原から南下し、途中で古川に沿って稗島、浜、中茶屋、徳庵……へと続く道で、中茶屋道標で古堤街道と分かれ、浜の道標で焼野道と分かります。浜のあたりでは葭が生い茂り、蓮池が多かったようです。

③古宮神社

赤曽根神社と称していましたが、大正4年(1915)に古宮神社と改称しました。花博(国際花と緑の博覧会)開催を控え、昭和61年(1986)から始まった土地区画整理の対象地域となり、南西150メートルの現在地に移りました。



④鶴見緑地

鶴見緑地は、昭和16年(1941)に大阪府の都市計画として挙げら

れた4大緑地のひとつとして造成計画が立てられました。ほとんどが田んぼだった土地は、昭和20年(1945)8月までに約30万坪が買収されていましたが、戦後、GHQによる農地改革で農民に土地が返還されました。大阪市は昭和37年(1962)に過密都市対策として鶴見緑地造成計画を立て、昭和47年(1972)に使用開始されました。大阪市制100周年を記念して計画された花博が平成2年(1990)に開催され、半年の開催期間中に約2,312万人もの人々が訪れました。



⑤鶴見新山

鶴見緑地に10～15メートルの丘陵を造成する計画がありました

が、途中で40メートル台の高さに計画変更されました。大阪市内のゴミ埋め立て処分場が不足していた1960～70年代、鶴見緑地が大量のゴミ処分場として選ばれ、丘陵を高くすることで、より多くのゴミを埋め立てることができたことがその理由のひとつです。ゴミの層と土の層を交互にサンドイッチ状に重ね、最後は土で覆土し、鶴見新山は完成しました。昭和49年(1974)時点ではゴミの腐食や圧縮による地盤沈下を予測して計画より高めの標高47メートルでしたが、花博開催翌年の平成3年(1991)には38.8メートルまで沈下しました。現在は約39メートルで市内最高峰です。造成当時は、生ゴミの細菌・微生物による分解によって炭酸ガス・メタンガスが発生し、噴き出したガスが高く燃え上がり、さながら火山の様相を呈していたともいわれています。

地下鉄鶴見緑地駅

